

国立大学法人宇都宮大学

宇都宮大学

(審査・評価委員の所見)

- ・標準化のフレームワークを研究開発の段階から導入するというコンセプトは素晴らしい。ただこの問題は博士課程の Transferable Skill の課題とも関わっており、経産省の知財本部がまとめた国際標準化の戦略文書を参考に鍛え直してほしい。
- ・APN の基盤となる光電融合や光領域において、今後の産業基盤の重要となる領域に大学が積極的に政府と連携し標準化を目指す点は評価できる、一方でそれを回せる体制について十分可能か少々不安が残る。
- ・標準化を通じた国際競争力の強化に取り組むとともに、標準化をベースとした知的財産権の取得促進についても積極的な推進を期待したい。
- ・光を軸にした OPX を軸にした産学連携体制についての提案だが、大学における標準化活動と本提案にはまだ実現性にギャップがある。
- ・光にフォーカスした研究は興味深い。医療への応用は競争が激しい分野である。まだ構想段階であろうが、十分に準備して進めて欲しい。
- ・研究段階から「標準化」に包括的に取り組もうという姿勢はチャレンジングではあるが、特色ある地域中核大学として希少価値あり。

国立大学法人香川大学

香川大学

（審査・評価委員の所見）

- ・素晴らしい提案だと考える。一方で、企業との交渉での難しさは理解しているものの、共同研究を行なっている企業との共同出願について知財の権利をもっと大学に寄せることはできないのかという点は少し疑問を持つ。
- ・希少糖研究を中心とした多領域展開による地域産業クラスターの構築について、知財マネジメントおよび戦略的に企業とのライセンス契約を実施している点が評価できる。
- ・幅広い研究課題に取り組み、希少糖の応用がさまざまな産業分野に広がっている点を評価したい。
- ・今後は、事業化の進みが遅れている分野でも、産業の仕組みづくり（エコシステム）の構築が進むことを期待する。
- ・希少糖の技術を用いて分野を超えて全学で連携する体制を作り、自走可能な大学モデルを提案している点を、事業のモデルとして期待したい。
- ・医療への応用は時間がかかるだろうが、テーマを整理して臨床応用へ向けて進めてほしい。
- ・知財戦略に加えた“国際標準化”についての理解・意識がまだ未成熟であり、今後検討して欲しい。

国立大学法人東海国立大学機構

岐阜大学

（審査・評価委員の所見）

- ・同大学の研究開発から TRL レベルを上げていく際に、大企業コンソーシアムとスタートアップ創出の全体マネジメントを機構側の人材と連携している点は理解できた。研究段階から SU 型ビジネスなのか大企業産学連携推進の方が良いのかの戦略が何よりも肝要であり今後の大学経営の持続性に直結するので留意が必要。
- ・コンソーシアムに参画する企業は大手が主体であると見受けられるが、地域産業の活性化を図るため、サプライチェーンを支える中小企業にも配慮した事業展開の検討も期待したい。
- ・自動車集積産業の集積地の地の利を活かした複数コンソーシアムを提案、具体的な成果が期待できる。また産学連携だけでなく、大学の研究レベル向上も目指しており、評価できる。人文系の活性化についても名古屋大学の未来社会創造機構との連携を期待したい。
- ・大学の強みを活かしてプロジェクトを進めて欲しい。医学系などとの連携がもう少し進められないか。
- ・産学連携の一つのモデルとして、“manager”の存在は新鮮。研究開発と社会実装を繋ぐ一つのモデルになり得るか。地域経済活性化の目線も認められる。

国立大学法人富山大学

富山大学

(審査・評価委員の所見)

- AMED など医学・創薬研究費をもっと活用する提案を出しても良かったのではないかな。
- 和漢薬のテーマにおける創薬イノベーション拠点形成という、事業化に長期間かかる領域にチャレンジしている点は非常に評価できる。一方で、非常に専門的な人材確保が重要となるので、製薬会社出身者の採用やリード化合物や PF/パイプライン形成について規制当局とのやり取りを実際行った実務経験者も大学内部に今後採用していくことも検討いただきたい。
- 医学部のみならず多くの学部が参画する開発体制を整備しており、事業化につなげる円滑な体制が構築されている点を評価したい。
- エビデンスの付与を通じて、地域医薬品産業の活性化が期待できる。
- 医薬品を軸とした産学連携モデルを提案、現実性がある。産学連携だけでなく研究レベルも向上すると期待できる。ただし、この活動により全学が活性化するかという点が懸念。
- 多くの和漢薬から真に有効な薬剤を見出す方法をぜひとも確立して欲しい。
- 伝統医療産業化と地域貢献が密接に結び付いている計画内容であり、本プロジェクトの主旨に合致。地場産業の成長・発展への追加的貢献として、地場産業と共にグローバル・マーケットの開拓にも注力して頂きたい。

国立大学法人福井大学

福井大学

（審査・評価委員の所見）

- ・小型人工衛星の技術開発を中心に行うのか、地域のインパクトを優先するのか、その切り分けをもう少し詰めた方がいいと思う。もし后者であればより広域の連携も模索すべきではないか。
- ・福井県においての小型衛星の産業サプライチェーン形成において、県産業と連携していき、北陸の繊維・金属マテリアル、放射線工学など特色を出し今後量産拠点としての産業クラスターを形成していただきたい。
- ・福井県の企業が有する技術を生かした製品・部品について、効果的に活用できるターゲットを明確化し、戦略的なブランディング展開が進むことを期待する。
- ・地域の金属加工産業を中心とした極限環境下での材料、デバイス開発に向けた宙テクノロジー研究センターの設立とそれに対応するクロスイノベーション推進本部を提案しており、地方大学の活性化の事業モデルとして期待できる。
- ・地域の特性を活かした事業である。今後 10 年の事業の拡大に向けて活動を進めてほしい。
- ・小型人工衛星技術をベースとし、地場産業との連携を第一として社会実装化を目指す方向性は本事業の主旨に合致。知財化を含めて次のステップ（大企業との連携など）を展望していく、という戦略は合理的と思料。